

道博協ニュース

発行所 北海道博物館協会 事務局 〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2
北海道開拓記念館内
電話/011-898-0456・FAX/011-898-2657

第44回 北海道博物館大会の報告

6月30日～7月1日、小樽市の小樽グランドホテルにおいて、第44回北海道博物館大会が開催された。1日目は午前10時より、北海道博物館協会・山田家正会長のあいさつ、開催地の小樽市教育委員会・菊讓教育長の歓迎の辞、日本博物館協会・中川志郎会長（五十嵐耕一専務理事が代理）、北海道教育委員会・相馬秋夫教育長（後志教育局中江修局長が代読）の祝辞があり、総会にうつる。小樽市博物館の土屋周三館長が議長につき、事務局より第1号議案・平成16年度事業報告、第2号議案・同会計収支決算報告の説明、佐藤監事の会計監査報告があり、拍手で承認される。つづいて、第3号議案・平成17年度事業計画案、第4号議案・同会計収支予算案、第5号議案・同特別会計収支予算案の一括説明、質疑にはいる。

釧路市立博物館の針生氏より、一般会計・支出の積立金決算額の一部が、別立ての特別会計・収入の積立金繰入に明示されてないとの指摘があり、前年度繰越金と合算して記載していることを説明し、次年度以降、内訳がわかるよう改めることになる（下記参照①）。えりも町郷土資料館の中岡氏より、組織財政検討委員会の提言と検討状況について質問をうけ、座長の足寄動物化石博物館・澤村寛館長より、3月の役員会で中間報告をしたこと、今年度末までには案をまとめるよう検討中の説明があり、来年度の総会で示すよう議長から求められる（②）。第3～5号議案が承認され、第6号議案の役員改選について、事務局から25名の新役員構成を提案し、承認される。第7号議案の第45回大会開催地について、平成18年7月に紋別市で開催する内諾を得ている説明があり、承認される。

その他事項として、北海道大学総合博物館の藤田正一館長より、過去のことが分からないので議事録の作成と事前配布の要請をうけ、議事録は作成して理事会で問題解決に努めていること、希望者には配布していることを回答する。さらに、全部に配布すべきこと、次回大会で議事録を朗読し

て議論するなどの確定手続をしてほしいとの意見に対し、あまり利用されないことと、経費削減の必要もあって、希望する方には全て送っていることを返答し、大会における手続等については役員会で協議することになる（③）。中岡氏より、協会が中心になって学芸的な活動を評価、表彰する必要があるとの指摘については、協会推薦ができるので、今後、役員会で検討課題とする（④）。木村栄之進氏より、協会が学術的な組織として、文化財や自然環境の保護、保存についてアピールしたり、参加するなど、協会活動を含めて検討していただきたいという要望をうけ、検討事項となる（⑤）。以上で質疑をおえ、議長あいさつ、新役員の就任について山田会長のあいさつで、総会を終了する。

午後から、日博協・五十嵐専務理事の特別報告「日本博物館協会の主要事業と最近の動向」、道総務部行財政改革推進室主幹の佐藤嘉大氏の特別講演「指定管理者制度について」につづき、佐藤氏、明治大学教授・矢島國雄氏、倶知安町教委社会教育課長・矢吹俊男氏をパネリストとして、シンポジウム「開かれた博物館をめざして—指定管理者制度を考える—」となり、活発な議論が展開された。最後に、来年度の第45回大会の開催地・紋別市より、紋別市立博物館館長の佐藤和利氏が抱負を述べ、山田会長の謝辞で大会を閉会した。

2日目は午前9時半、小樽文学館（Aコース）と交通記念館（Bコース）に集合し、市教委の石神敏氏と市博の石川直章氏の案内で、歴史的な街並みを見学して、二日間にわたる大会を終えた。

なお、総会での検討事項は、9月1日、白老町で開催された第2回役員会で協議がおこなわれた。以下に検討結果を列記する。①内訳を明示することに改める、②今秋の検討委員会（札幌）で打合せ、道博協全体の関わりで検討することを留意する、③道博協ニュースで報告し、詳細を希望の方は別途事務局に申し込む、④日胆ブロック（中村理事）で再整理して具体案を提示することとする、⑤基本的には各館対応になるとしながらも、全体に関わる事柄などは検討を要すると、対応に含みを残す結論となった。

平成17年度 ミュージアムマネジメント 研究会の報告

明日にむかって!! どうする!?

平成17年度北海道博物館協会

ミュージアム・マネージメント研修会閉幕!!

日胆地区博物館等連絡協議会(永崎広実会長)では、去る9月1日・2日の両日、「博物館来館者増対策～人はなぜ博物館に来ないのか～」をテーマに、平成17年度北海道博物館協会ミュージアム・マネージメント研修会を白老町虎杖浜のホテルピュラメールを主会場に開催しました。全道規模の博物館大会が白老で開催されるのは、財団法人アイヌ民族博物館と仙台藩白老元陣屋資料館が開館した翌年の昭和60年以来ですので、20年ぶりということになります。

日程が学芸職員部会と重なったことから、参加人数が心配されましたが、全道各地から博物館関係者70人が相集い白老大会をスタートしました。最初に札幌市円山動物園藤沢武園長に「博物館来館者増対策…新しい動物園を目指して」と題し基調講演をいただき、続いて北海道立近代美術館浅川真紀、穂別町立博物館櫻井和彦両学芸員から、それぞれ「コレクションの新たな魅力を引き出す展覧会をめざして」「町民に親しまれる、見て楽しい、何度も足を運びたい博物館を目指して」として事例報告がなされました。

藤沢園長は、クマの木登りなど展示方法の工夫、携帯電話フォトコンテストなどイベントによる客層の拡大、年間パスポートの発行や動物とのふれあいによるリピーターの増、おもてなし宣言など創意工夫による対策を話され、参加者からは今話題の旭山動物園についてどう思うかなどの質問も寄せられました。一方、事例発表で浅川学芸員は、昨年12月から今年4月まで実施したコレクション・カフェを紹介。シュチュエーション、ストーリー、シュミレーションの“3S”が重要と指摘しました。櫻井学芸員は、町民に親しまれる博物館として特別展示室を開放する「マイ・ミュージアム」事業の実施や、来るたびに違った展示の工夫を紹介しました。

引き続いて行われた討論会では、日本ミュージアム・マネージメント学会北海道支部会員の澤村寛氏(足寄動物化石博物館館長)の名司会により、意見が交わされ、活発な議論が繰り広げられましたが、参加者からは、長引く景気の低迷に伴う予

算減・人員削減と、来館者の減少に歯止めがかからず、思うような博物館活動ができないという現状。今、博物館は本当に必要とされているのかわからなくなったという嘆きや、観光資源としてではなく、観光施設としての売り出しを図るべき、はたまた民活運営化による指定管理者制度を積極的に導入したいなど、危機的な意見も数多く出されました。このように博物館を取り巻く環境は悪化する一方ですが、職員は不安と疑問を抱きながらも、将来への希望をもって、市民と協働しながら、日夜様々な博物館活動に励み、取り組んでゆくことを誓い合いました。

研修会終了後の情報交換会には、地元虎杖浜の越後踊り保存会(吉田正利会長)のみなさん30人が出演、丸い円になって町無形民俗文化財に指定されている盆踊りを披露、宴を大いに盛り上げていただきました。さらに白老の山海の幸を口に運び、ほろ酔いかげんにして、まさかまさかの野外研修では、バスでホテルから20キロ離れたアイヌ民族博物館に出向き、これも我々のためだけに特別に上演していただいた「ポロトコタンの夜」を鑑賞し、ムックリの音色とともに静かに夜は更けてゆきました。

翌2日には「アヨロのアイヌ語地名を歩く」として野外研修を再スタート。白老在住のアイヌ文化研究者であり、苫小牧駒沢大学客員教授でもある岡田路明さんの講義を好天のもと現地を受け、続いて史跡白老仙台藩陣屋跡と元陣屋資料館では、20年来、ボランティア解説を手がけられている資料館友の会のみなさんにご説明をいただきました。

関係者の努力と様々な人々の協力が実り、エネルギーとなって、どうにか成功裡に閉幕した白老大会。この成果をいつものように“やりっぱなし”や“やっつけ仕事”にせず、明日からの博物館活動に確かにつなげてゆきたいものと思っています。

(仙台藩白老元陣屋資料館 武永 真)



石狩・後志・
空知地区
News

笑顔のアイヌ風俗画

小樽市博物館特別展「描かれた岸辺のアイヌ」顧末記

今年の特別展は7月から「描かれた岸辺のアイヌ」展を9月末までの間開催しました。小樽市博物館としては二十数年ぶりのアイヌ文化に関する特別展でした。

一般に博物館の特別展は準備に3～4年、学芸員の頭の中で形になるまでの構想段階を入れると、もっと長期の準備・調査期間が必要とされます。ところが、今回の特別展は、中心となるスケッチを古いトランクごといただいたのが今年の8月、つまり1年足らずで開いてしまったものです。

当然、といっちは開き直りになりますが、必要な調査もまだまだ足りない感もちつつの開催となりました。

このような無理をしてでも、この展示を企画した理由は「笑顔」にあります。学芸員とはいえ公務員ですので、「好き嫌い」で仕事をしてはいけません。しかし、トランクをあけ、アルバムの下からこの「笑顔」の墨絵を見つけたときに、「この絵を世に出したい。」と強く思いました。

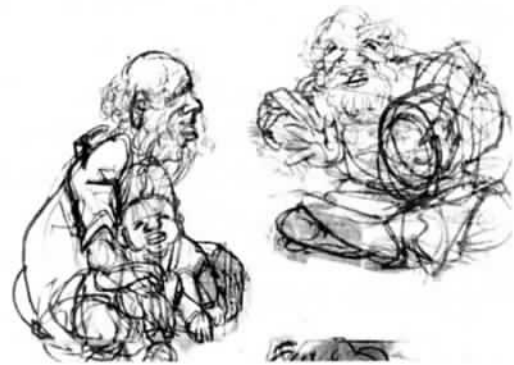
このような「笑顔」があふれるアイヌ風俗画、穏やかで幸福感に満ちたアイヌ風俗画を始めて見

ました。

今回の展示がもし、評価していただけるのであれば、それはこの「笑顔」をご紹介できた点にあると思います。そしてこの「笑顔」がなぜ伝えられなかったのかをお考えいただければと思いながらの開催となりました。

この特別展の副産物となったのが、博物館友の会のご協力でロビーで実施した「アイヌ紋様を切り絵で作ろう」という体験コーナーで制作された切り絵です。夏休みの自由研究として提出した子どもたちも多くいました。また先日まちの保育サークルのポスターに「アイヌ紋様を切り絵で作ろう」と書いてあるのを見つけました。これも博物館活動の評価なのかな、などと思いました。

(小樽市博物館 主任学芸員 石川 直章)



道南ブロック
News

「ガソリンスタンドになってください！」

～道南ブロック博物館施設等連絡協議会研修会
「博物館と学校との連携～「総合的な学習の時間」を中心として～」～

子どもたちの好奇心はどこへ行くか分からない。だから、普段は、教師がしっかりハンドルを握って、子どもたちを目的地まで連れて行く。しかし、「総合的な学習の時間」は違う。子どもがそれぞれハンドルを握り、自分で目的地を見つけ、走っていく。けれども、子どもたちのエンジン＝好奇心は、簡単にガソリンが切れてしまう。だから、子どもたちが走り続けるために必要なガソリン＝「新たな知識・疑問・視点」を子どもたちのエンジンに注ぎ込まなければならない。「学芸員はガソリンスタンドになって下さい」と、厚沢部町立鶉小学校の中山晴生教諭は言う。

平成14年度から小中学校に「総合的な学習の時間」が導入され、子どもたちに資料を紹介したり、一緒にフィールドワークに出かけたりする機会を持つようになった。「博物館と学校との連携」をテーマに掲げた今回の研修会では、①学校は博物館に何を求めるのか、②博物館が学校にどのような協力・提供ができるのかを学び、私自身の抱え

る疑問－学校教育の中で学芸員が果たすべき役割－を解決する糸口を見つけることが目標だ。

小学校教師の立場から講演を行った中山教諭は、能動的な学びを作り出すための実践例を紹介し、学芸員には「世界観を広げてくれること」、「モノの価値を示してくれること」、「自分を（人間を）語ってくれること」を期待したいと述べた。フォーラム・ディスカッションでは、「学校側が博物館を積極的に利用しようとする意識が低い」という指摘がなされ、単に利用を呼びかけるだけではなく、学校のニーズに合った教材・プログラムを博物館側が準備する必要があるとされた。学校側からは、教師と学芸員の人格的なつながりの重要性が強調された。子どもたちは学芸員の人間性に触発されて、好奇心を持続・加速させるという。

小規模町村の多い道南こそ、博物館と学校が濃密に協力できるはず。「学び」のエキスパートとして、子どもたちの知的好奇心に火をつけることが、学芸員の大事な役割だと感じた。

(厚沢部町郷土資料館 学芸員 石井 淳平)

道北3管内
News

特別展『富良野盆地の活断層

～足元に直下型地震の痕跡を探る～』の開催

ここ最近、台風・豪雨・地震…と自然災害のニュースがとても多く感じられます。場合によっては、人命や財産に関わるとても重要な問題なので、余計気になるのでしょうか。しかし、危機感をもっているかということ、どうもそんな感じでもありません。追い討ちをかけるようですが、日本は「地震大国」ともいわれるくらい地震の多発地帯であることは周知の事実です。私たちはまさにそこに暮らしており、このような環境のもとで悠久の歴史が刻まれてきたのであり、この自然現象と切り離して私たちの生活を考えることはできません。

今回の特別展は、そのような地震と富良野盆地の周縁部を取り囲むように分布する断層帯に関する展示に取り組みました。富良野盆地では、2002年から2004年に、北海道立地質研究所による調査が実施され、本展はこの調査成果の公開をはじめ、地震のメカニズムや過去の大規模な地震の紹介、防災に関する情報提供などで展示構成しました。同研究所の調査によれば、確認できた断層は縄文時代の中頃と続縄文時代の初頭に活動したと推定

されています。

地震は目には見えない(?)自然現象なので、展示構成には苦慮しましたが、トレンチ調査で確認された断層の地層断面を剥ぎ取った標本を展示することができました。欲張りすぎて、縦2.7m、横3.6mも剥ぎ取ったため、重いし、でかいし、扱いにくいといった三重苦に悩まされながらも、財団法人北海道埋蔵文化財センター、東京大学北海道演習林、当博物館ボランティアの皆さんの協力のおかげで迫力ある標本に仕上がりました。

特別展は9月をもって終了しましたが、この標本は常設展示室に移設して公開しています。ぜひご観覧下さい。

(富良野市博物館 澤田 健)



活断層断面の原層標本 (2.7×3.6m)

日胆地区
News

様似郷土館特別展～海と船の企画展～

「様似(シャマニ)会所と等澗院(とうじゅいん)200年の歩み」開催

様似町では、蝦夷三官寺の一つ、等澗院に最初の住職が着任して200年を迎え、また、等澗院古文書などの資料が国の重要文化財に指定された今年、8月16日から9月25日までの約40日間にわたり、標記の特別展を開催しました。

この特別展の目的は、海から開け、海とともに発展してきたふるさとの歴史をふりかえり、「より多くの町民に、町の歴史を知ってもらい、ふるさとの自信と誇りを持ってもらう。」ということです。深い歴史を持つ町でありながら、必ずしも町民の理解が高いとはいえません。

展示の内容は、砂金の発見、場所、会所の成立、航路や道路の発達、そして等澗院の設置と変遷、などといった、江戸期の様似の様子を中心です。

また、三官寺の各寺と当該市町教委の全面的な協力のもと、善光寺や国泰寺の展示コーナーも設けられました。「行ったことがある」という町民が多かったのは、三官寺というつながりを理解し、親しみを持っている人が多いようでした。

小学生など、より多くの人に読んでもらえるようにと、展示パネルの文章には、すべてふりがなをふり、大人にも好評でした。

公民館の文化ホールを会場とし、様似町出身漫画家の原画展と、北海道砂金史研究会の展示会も

同時に開催しました。内容はかなりのボリュームで、一回の来場で全てを見るのは難しく、何度も来場し「今日は何回目だ。」と話す町民も少なくありませんでした。

昨年度は厚岸町で、今年度は伊達市と様似町で、三官寺の歴史に関する行事がそれぞれ開催されました。これら機会を通じ、三市町の関係者や住民が交流を持てたことは、大変有意義なことでした。北海道の歴史研究において、明治以降の開拓史に比べ、日の目をみるのが少なかった江戸中期からの歴史研究が、さらに深まることが望まれます。

人口6,000人弱の町で、期間中約1,600人という予想以上の入場者数は、主催者である私たちスタッフに大きな喜び、そして宿題を与えられたようです。

(様似町教育委員会社会教育課 児玉 正敏)



期間中の関連事業「街角に江戸時代をさがす」より

道東3管内
News

特別展に思う

釧路市立博物館では、本年夏、北海道開拓記念館、財北海道埋蔵文化財センター、根室市歴史と自然の資料館の協力を得て、「大昔の飾りと信仰」をテーマとする特別展を開催した。まずは誌面を借りて、各館の皆様にお礼申し上げたい。

当館における考古学関係の特別展は、材木町5遺跡から出土した湖州鏡にスポットをあてたものを最後に永らく開催していない。館の担当者からは何度か催促されていたが、発掘調査などのため

網走管内
News特別展「アイヌと北の植物民族学
「～たべる・のむ・うむ～」を振り返って

今夏、当館で開催した特別展について報告したい。実は、テーマは4年前に決められていた。連続テーマを「北方民族の生業」と設定し、3年前に狩猟、翌年は漁労と海獣猟すなわち水産資源利用、昨年が牧畜、今回が採集という流れである。だが、「採集」だけでは特別展の構成は難しいと考え、テーマを「植物利用」にスライドさせ、なかでも食用・薬用・繊維の利用に焦点を当てることにした。他の生業に比べ規制が少なかったなど諸々の理由により、植物利用に関する知識や技術が実用として現在まで継承されていることとともに、主に女性が担った仕事を紹介したいと思った。関連行事でもオオウバユリからのでんぷん採取、草木染め、織物、料理と体験的な講習会を行った。

資料は採集・運搬具、調理具・食器、繊維製品などの民具と保存用に乾燥した植物等200点余りを中心に、映像資料やアクリル樹脂封入標本も展示した。古いものばかりでなく、近年つくられたものに製作者名を付して展示することで、今も伝承されていることを示したつもりである。未使用の新しいものを展示することには賛否両論あろうが、「きれい」「手が込んでいる」「作ってみたい」と

辞退していたところである。

そのような経緯もあり、私自身、こうした企画を担当したのは初めのことである。日常業務として、学芸部門に携わる諸氏にとっては至極当然のことであるが、展示シナリオの重要性や展示スペースをいかに熟知しているかなど、実際の作業の中で貴重な勉強をさせていただいた。果たしてこの実習生は及第点を貰えたのであろうか。

期間中の来館者数が気になった。日報によると昨年と諸条件はほぼ同じで、結果は250名減。

隣接する市立青少年科学館の閉館、知床国立公園園化による観光経路の変化、幾つかのマイナス要因が考えられるものの、来館者数の減少という今日的な問題を突きつけられた形だ。

規模縮小、コストダウンが叫ばれて久しい。展示更新もままならない現在、特別展のありかたもよりきめ細かな計画、工夫が求められていることを強く感じる。

(釧路市埋蔵文化財調査センター 石川 朗)

感心・関心の声が多かったのも事実である。

また、財アイヌ文化振興・研究推進機構所蔵の実物大のチセを展示した。これはまさに「植物に囲まれた暮らし」を表すのに適した資料である。しかし、写真が少なかったなど反省点も多々ある。ともあれ、ふつうに見られる山野の植物を素材にただけに、身近なテーマと感じてもらえたようであり、観覧者数は近年の当館実績としては多い約6,000人となる見込みである。また、薬学など異分野の専門家にも関心を持っていただけたことが、今後の研究の広がりにつながればと願う。

(北海道立北方民族博物館 学芸員 齋藤 玲子)



展示室の様子

動物園・水族館
News

動物園・水族館ニュース 今、円山動物園では

いやあ、動物園って癒されるなァ。おもわず怖いお兄さんの口から出た言葉を聞いたときの複雑な気持ち。

動物園は、いつの時代においても、楽しくほっとできる癒しの場であるのです。と同時に、絶滅の危機にある希少動物の繁殖など種の保存施設としての役割も担っています。

また、命の大切さやその動物が生息していた地域の状況を通して環境保全への意識啓発を図る学びの場でもあるのです。

多くの方が動物園に来て、楽しんでもらう試みとして、2つの事例を紹介しましょう。

1. 動物とのふれあい

新しい試みとして、トビのピリーのフライトショー、リスザルへのえさやり体験、カンガルーの赤ちゃんとのふれあい、プレリードッグの赤ちゃんとのふれあい、トナカイの赤ちゃんクリンの散歩などを行っており、どのふれあいも、動物との距離が圧倒的に近くなることから大変好評です。

2. おもてなし宣言

動物園にたくさんお客様が来ていただくために

は、リピーターを増やすことも必要です。

このためには、何度来ても飽きないような仕掛けの加えて、おもてなしの心でお客様と接しなければならないと考え、我々市の職員のほかに、受付、改札、駐車場などの委託業者、売店、食堂、動物園ボランティアなど動物園関係者が集まり、本年8月、おもてなし宣言を行いました。

この中のひとつに、<お客様のご意見を大切にします。>とあり、具体的には、ご意見箱を置いて、お客様のご意見をいただいております。動物園運営の参考にしています。

(円山動物園 園長 藤沢 武)



プレリードッグの赤ちゃんとのふれあい

員会の藪中剛司さんは「合併前の事例」、そして北見市教育委員会の柳谷卓彦さんは、北網圏北見文化センターの「指定管理者制度導入前後の変化」について発表されました。民間業者や企業、団体等が公の施設の管理・運営に参入できる制度の導入によって、博物館も民間事業者などの管理・運営に委ねられるようになりました。行政のスリム化がますます進む中、この制度導入は行政にとっては、いつしか望ましい博物館の在り方のひとつとして理解されていくのでしょうか。地域の役割を担っていない博物館はない、そう思いますがもう一度、博物館の役割—博物館と地域と人とのかわりかを考えてみよう、そんな気持ちにさせられた研修会でした。

引き続き開催された、部会総会では提案された議題のすべてが承認されました。ただし、役員改選につきましては、各ブロック選出の幹事の人選の一部が未定となっており、三役による人選ということで了認されました。なお、平成18年度の研修会開催地は石狩管内を予定しております。

(学芸職員部会 矢吹 俊男)

学芸職員部会
News

学芸職員部会 情報・話題・動き

平成17年度学芸職員研修会

8月25・26日の2日間、斜里町において平成17年度学芸職員研修会が開催されました。

テーマは「土俵際の博物館」。平成8年から続いた研修会のテーマ「地域学のスズメ」が今年度になって変わったのは、博物館の在り方を博物館側から考えてみようとのことからです。知床博物館長中川元さんの「知床世界遺産と博物館」と題する講話は、知床が世界遺産に登録されたいきさつのなかで基本となった部分が、長年にわたる調査、研究に裏打ちされた成果をもとにし、地域の役割を担ってきた博物館の存在があったから、というものでした。「どこの地域にも宝物があって、かわる人がいて、(博物館は)ふんばることができる」、この中川さんのお話が、今回のテーマ設定の真意と受け止めました。引き続き行われた事例報告は、施設への指定管理者制度の導入と市町村合併にかかわるものでした。函館市北方民族資料館の福田裕二さんは「合併後の事例」、静内町教育委

新館紹介

旭川市科学館 サイバル

旭川市科学館サイバルは、旭川市青少年科学館を発展継承する施設として、平成17年7月23日、常磐公園から宮前通東に移転開館しました。神楽岡公園や忠別川河畔林など周辺の自然、敷地内に設けられた野外自然観察空間と伸び伸びとした空間で科学を学ぶことができます。

＜常設展示室＞

常設展示室（面積1,780㎡）では、科学原理を体験的に学習できる46の展示機器類を「北国」、「地球」、「宇宙」の三つのコーナーに分けて設置しています。展示のコンセプトは、「ふしぎからはじまる＜科学＞との出会い」。体験をとおして楽しみながら学ぶことを基本として様々な科学分野を総合的横断的に理解できるよう構成しています。ミックスド・リアリティーの技術を応用した「北国の動物はなぜ大きい」やモーションキャプチャーの手法を導入した「人類の進化」は全国でも初めての展示です。

「北国コーナー」では、寒冷な気候や、雪や氷、北国に生息する動物など、北海道・旭川の地域が持ついろいろな特徴を取り上げています。「地球コーナー」では、様々な自然現象、人体、光や磁気、エネルギーなど、幅広い科学原理・現象を楽しみながら体験できます。また、「宇宙コーナー」では、宇宙空間で生じる現象、宇宙の生成、太陽系の様子などを取り上げています。

サイエンスシアター（250インチスクリーン）は客席数54席で、科学館オリジナルの3D番組を中心に放映しています。また、自然対流式で-30℃に設定された低温実験室では、土・日曜日に雪や氷に係わる様々な実験を体験できます。



旭川市科学館の外観

＜プラネタリウム＞

プラネタリウムは、ドーム直径18m、客席数170席、ドイツ・カールツァイス社製の投影機を導入しています。客席は同心円配列を基本としていますが、一部の座席が回転して一方向配列になります。また、障害をお持ちの方が介助者とともに観覧できる二人掛けシートの採用や車椅子スペースも確保しています。

投影内容は一般番組、特別番組（幼児番組、学習番組）を用意し、ドーム映像を共用してわかりやすく解説しています。

＜天文台＞

大小2基の天文台を屋上に設置しています。

大天文台（直径8m）には、65cmカセグレン式反射望遠鏡、小天文台（直径5m）には、20cm屈折望遠鏡を配し、55年間継続されてきた太陽黒点観測と惑星観測、様々な天文普及事業を行っています。

＜各種実験室＞

2階には、パソコン実習室、電子工作室、理科実験室、レファレンスルーム、木工模型工作室が常設展示室の吹き抜け空間を囲む通路に沿って配置されています。

＜施設概要＞

所在地 旭川市宮前通東
敷地面積 27,099.65㎡
延床面積 5,799.60㎡
構造 鉄筋コンクリート造一部プレストレストコンクリート及び鉄骨造4階建
駐車場 乗用車81台（身体障害者用5台）、大型バス6台

（旭川市科学館 南 尚貴）



常設展示場

館・園の主な展覧会と普及事業

(2005年11月～2006年3月)

石狩

札幌市青少年科学館(011-892-5001) 11/26,12/23,24,1/21,2/25,3/25
科学館天体観望会、プラネタリウム夜間特別投影、1/5～15冬の特別展「(仮称)科学実験」、3/25～31春の特別展「(仮称)電気」

いしかり砂丘の風資料館(0133-62-3711) 11/26 森をまもる、利用する-くらしに身近な森林の歴史、1月 寄贈資料展、石狩ビーチコマーズ(冬)

北海道開拓記念館(011-898-0456)アスベスト除去作業のため臨時休館(11/8～12/28)

北海道開拓の村(011-898-2692) 11/6,20 わら細工講習会-わらじ、ぞうり,11/23～12/28 絵手紙むらの風景展、12/3,4 わら細工講習会-しめ縄、12/18～25「冬・むら・ロマン」(もちつき、菓子職人の実演、むらのクリスマス、お正月、節分、ひなまつり、その他楽しい催しがあります。)、1/14～2/26 企画展 衣-北国で暮らす知恵と工夫(企画展関連講座 2/11 防寒服の材料と科学、2/25 資料にみる殖産興業と繊維業、おばあちゃんの手編み)、3/1～31 第20回写真コンテスト優秀作品展

北海道立文学館(011-511-7655) 11/20～1/15 写真展 サハリン追跡-残留朝鮮人の軌跡、12/17 ロビーコンサート、1/5～8 文学館ふれあいフェスタ、2/25～3/21「春を待つ子どもたち-いわさきちひろ複製画展」

北海道立近代美術館(011-644-6881) 9/3～12/4 北海道美術1970-1990、三つのアニバーサリー 公募展でたどる北海道アート(10/28～11/7 全道展60周年記念展、11/9～20 新道展50周年記念展、11/23～12/4 道展80周年記念展)、12/14～3/26 片岡球子と院展の作家たち、12/14～1/29 アミューズランド2006、2/7～3/12 高橋博信コレクション受贈記念 浮世絵美人画の魅力 国貞・国芳・英泉、3/17～26 第20回記念 北の日本画展

北海道立三岸好太郎美術館(011-644-8901) 1/27～3/21 札幌回顧-洋館のある街

渡島

北海道立函館美術館(0138-56-6311) 10/22～12/18 北海道の詩歌と書の世界-書と北海道の写真と共に、10/22～1/15 道南の精鋭 I V 長野久人展、1/7～15 第60回 行動展、1/21～2/19,2/23～3/21 前田政雄展、1/21～3/21 奥尻島発ニューヨーク行シュルレアリスト早瀬龍江の世界

後志

札幌北一ヴェネツィア美術館(0134-33-1717) 11/19～1/27 エナメル彩展、1/28～5月中旬 モザイクガラス展

小川原脩記念美術館(0136-21-4141) 11/16～12/18 題名のない展覧会5、12/22～3/27 あなたが選ぶ展覧会4

空知

砂川市郷土資料室(0125-52-2339) 10/5～11/28 スイーツの秋 スイートロード菓子店の歴史展

上川

旭川市博物館(0166-69-2004) 11/1～12/4 我が街・旭川-レンズがとらえた旭川の40年、3/5～31 東北・北海道の黒曜石、体験学習-11/9,10チカラベを編む、11/12 振り返る市民の戦後史-女性の生活、12/14 縄文の知恵を学ぶ-縄文のまが玉をつくる、2/9,16 アイヌ文様刺繍、3/4 雪の結晶をつくろう、2/26 旭川女子校史-精華女学院と高平常世をめぐって、3/11 アイヌ文化②、12/10使ってみよう昔の道具-ガリ版刷り印刷に挑戦

士別市立博物館・公会堂展示館(01652-2-3320) 12/3 昔の食体験-そば作り、12/18 クリスマスレクチャー(和泉雅子講演会)、1/7・8 お正月体験、1/14 親子収穫体験-わら細工-ぞうり作り、2/19～3/5 テーマ展「ひなまつり」、3/4 雪原ウォーキング-かんじき体験
中川町エコミュージアムセンター(01656-8-5133) 2/10～13 森の学校2006冬、3/29～31 森の学校 J r 2006冬

中尾二郎記念旭川彫刻美術館(0166-52-0033) 10/22～12/11 あさひかわ・彫刻の現在 青銅会の作家たち、12/17～1/29 まちなみ彫刻写真展2005、2/4～終了未定 収蔵品展

名寄市北国博物館(01654-3-2575) 2/4～26 開館10周年記念特別展 冬季展「北国と羊」、3/29～4/9 新着資料展、11/12,12/14 小さな自然観察クラブ、12月上旬 リース作り講習会、1月下旬 雪あかりコンサート、3月上旬 万華鏡作り講習会、3/11 雪とあそぼう!!
北海道立旭川美術館(0166-25-2577) 11/12～3/5 小野州一展、11/12～3/26 北の形象

留萌

留萌市海のふるさと館(0164-43-6677) 1/15 冬の自然観察、2/12 まとめ会、3/26 巣箱掛け

宗谷

オホーツクミュージアムえさし(01636-2-1231) 2月 ひな祭りのころ

網走

美幌博物館・美幌農業館(01527-2-2160) 11/2～30 交通安全ポスター・作文展、12/18～1/22 寄贈美術資料展、2/5～3/5 冬季作品展、3/19～5/21 馬と歩む馬耕史、3/27～5/22 武四郎が見た美幌-140年前の美幌にタイムスリップ

上湧別ふるさと館 J R Y(01586-2-3000) 2/11～3/12 100年の食卓(仮)
紋別市立博物館(01582-3-4236) 10/22～11/6 第2回博物館サークル活動作品展、2/9～3/12 村瀬真治の世界展、12/4 手打ちそば講座、2/22(予定) 北方圏国際シンポジウム分科会「氷海の民」シンポジウム

胆振

室蘭市青少年科学館(0143-22-1058) 1/8 親子工作教室、1/14 冬休みパソコン教室

室蘭市民俗資料館(0143-59-4922) ふるさと講座 体験学習会 11月下旬「干支風づくり」、12月中旬「しめ縄づくり」、12月下旬「もちつき」、1/21,2/19 「民俗資料館資料・冬の移動展」

日高

静内町郷土館(0146-42-0394) 10～12月静内町郷土館講座1月おやこ塾
沙流川歴史館(01457-2-4085) 9/27～11/27 特別展「青トラ石と石斧」

十勝

帯広百年記念館(0155-24-5352) 11/6年賀状を作ろう、11/19埋蔵文化財センターを探検する、12/17大地が語る十勝の自然史、1/11～2/7生活史年表Ⅱ、1/20～29第24回郷土美術展、1/21晩成社とアイヌの人びと、2/10～3/3ひな人形展、2/16～22後期陶芸講座修了作品展、2/18縄文時代が始まったころⅢ、2/26冬の生きものウォッチング、3/18大昔のとちかち

神田日勝記念館(01566-6-1555) 11～12月 徳丸滋展、11/6 芸術鑑賞バスツアー、12/8 日勝祭(生誕祭)、1/12,3/28 子どもワークショップ、1/29 子ども芸術鑑賞バスツアー

北海道立帯広美術館(0155-22-6963) 11/12～12/25 クールベ美術館展、1/11～3/26 BLUE/RED、1/11～3/26 迷宮美術館ミステリー・ツアー

釧路

厚岸町海事記念館(0153-52-4040) 11月下旬 N響プラネタリウムコンサート、3/1～15 寄贈資料展

釧路市立博物館(0154-41-5809) 11～1月 学芸員トーク

北海道立釧路芸術館(0154-23-2381) 10/22～12/7 ぐるっと漫遊・北海道、12/17～1/29,2/4～3/12 芸術館ファンタジー、1/14・15 カモメンジャーももちゃんの冒険 スーパーマックス

根室

根室市歴史と自然の資料館(0153-25-3661)

11/2・6,12/7・21,1/11・18,2/1・15,3/1・15 藤野家文書解説会、11/18 歴史と自然の資料館講演会12/5 タンチョウウーイ調査(槍昔)、2/24 学芸員講演会

別海町郷土資料館(01537-5-0802) 2月中旬 オジロワシ・オオワシを観察しよう

希望者募集 !!

北海道での主要な出来事の新聞あり、新聞は掲載日の全てをそのまま保存、全量は積み上げると7～8mあり、希望者は事務局まで 乞連絡